

令和3年12月28日

## 研修報告書

1. 会派           みらいねっと都城
2. 研修名       オンラインセミナー
3. 受講場所     会派控室
4. 受講期間     令和3年12月15日（水） ～ 3年12月20日（月）
5. 研修内容
  - ①コロナと効果的な議員質問 Part 1
  - ②コロナと効果的な議員質問 Part 2
  - ③コロナと効果的な議員質問 Part 3
  - ④コロナと効果的な議員質問 Part 4
  - ⑤公共施設と都市づくり
  - ⑥自治体の公共施設への向き合い方

### 6. 研修の感想

#### ①～④

議員質問とは何ものか、わざわざ議事録に残す意味について。また、執行部とのやり取りのノウハウについて。 議員それぞれに質問やその聞き取りの仕方に型があると思うが、数字だけを尋ねるような質問は、資料請求で済むのであり、それを基に、市政についての考えを質す場でなければならないと改めて感じた。

聞き取り時のテクニックとして“架空のお願い”というのは、社会生活全般に生きてくると思うが、なかなか難しい。

⑤ 公共施設、すなわち道路や上下水道などのインフラや公営住宅を含む社会資本の維持管理、更新費の将来設計について、自治体の目線における説明。公共施設は建設そのものより維持管理にこそコストがかかる。また、未曾有の人口減の中で、維持管理を行う人材の不足も指摘されている。公共施設の再編・統廃合は地方自治の最大の課題であるとの結論。

本市においても、中山間地域に位置する小中学校においては、小中一貫教育を行ったり、地域外通学を受け入れたりといった工夫によって存続しているが、施設そのものが老朽化し危険水準とな

った場合の存続について、多角的な検討が必要であるとする。また、上下水道管の老朽化による事故が全国で多発しているが、本市も例外ではない。事故発生の原因について、明確な断定は難しいかもしれないが、継続的な検証が必要であると思う。

⑥ 公共施設について、40年、60年等長いスパンでの自治体の向き合い方について。さいたま市や浜松市等における公共施設への負担軽減策や、複合施設化の住民参加型ワークショップ方式を事例に、いかに、財政負担を削減する工夫をするかという説明であった。

## 7. 研修の成果および市政への反映

①～④ 質問時は、柔軟で対話的な聞き取りによって、政策を提案していきたいと思う。加えて、すぐには解決できないにしても、市が抱えている課題を明らかにし、追及し続ける姿勢も忘れずにいたい。

⑤ 上記を踏まえ、本市の公共施設における課題について、実態および市の考えを追求していく必要がある。

- (1) 過疎地域の学校施設、自治公民館等、地域コミュニティ施設の老朽化
- (2) 上下水道管の更新

⑥ 本市でも立地適正化計画に沿ってまちづくりが進められているが、その実績についての検証を行う必要がある。